

経営比較分析表（令和3年度決算）

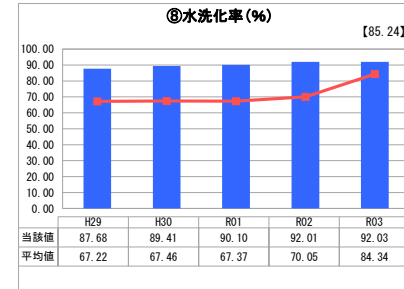
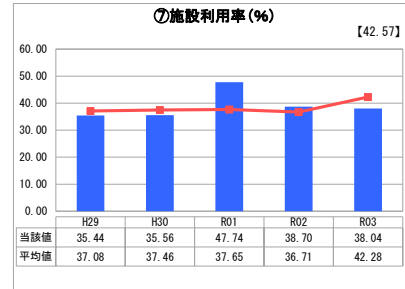
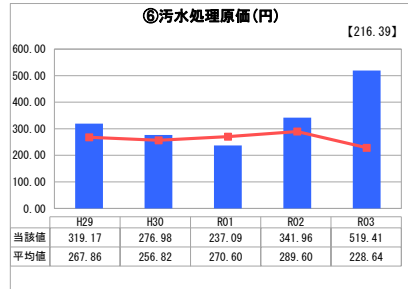
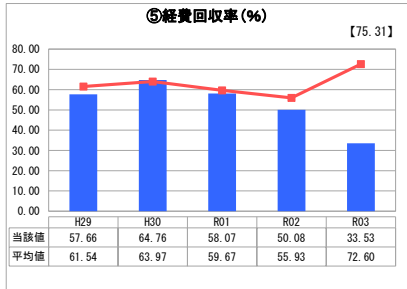
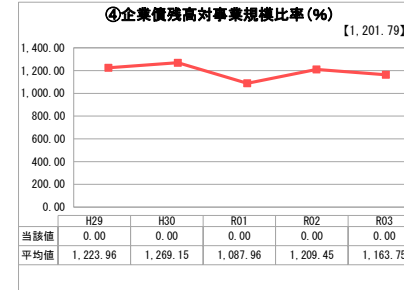
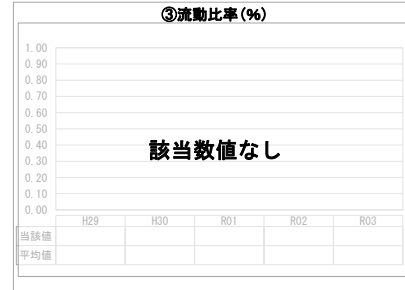
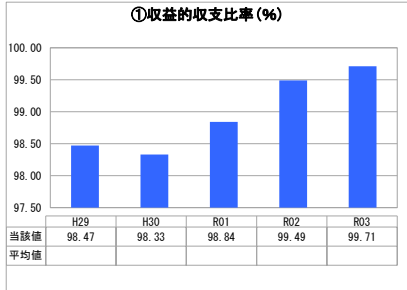
佐賀県 玄海町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	76.24	100.00	3,520

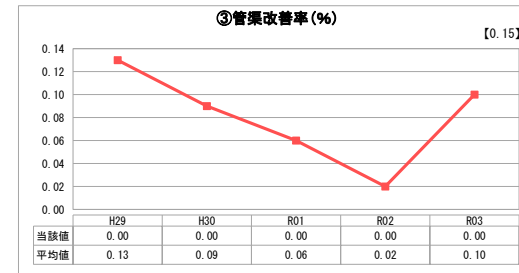
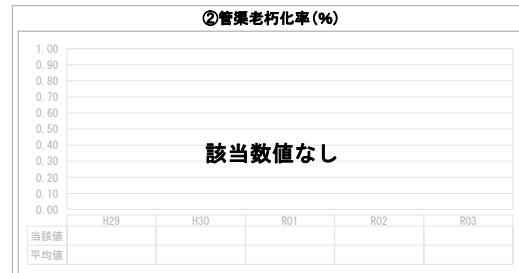
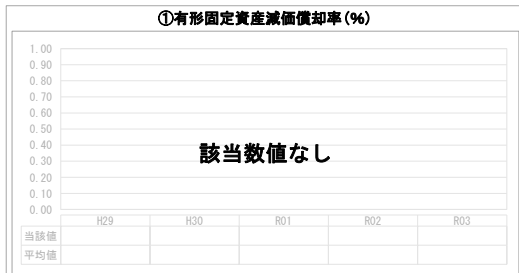
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
5,292	35.92	147.33
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
3,988	1.46	2,731.51

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経費回収率は平均値より大幅に低く33.53%となっており、使用料のみでは経営は成り立たず、一般会計繰入金に依存している現状である。低くなる要因としては、汚水処理費の増（更新工事の増、維持管理に係る委託料の増、その他諸経費の増）が考えられる。また、汚水処理原価についても同じことが言え前年度より大幅に高くなっている。また、人口減に伴い汚水処理量が減っていることが考えられるため、施設利用率が下がっている。

このため、令和6年度から料金も見直す予定だが、増額は住民負担を強いることとなるため、料金の賦課方式（現在は人頭制）も見直す予定である。また、高額な汚泥処分費用について、少しでも削減するため、その処理方式について検討を進めているところである。

2. 老朽化の状況について

南部浄化センターの併用開始が平成18年度、北部浄化センターの併用開始が平成22年度となっており、近年修繕箇所が度々発生してきている。このため、整備計画を作成し、計画的に修繕を進めている。

全体総括

人口減や施設の老朽化が進む中、今後も使用料のみでの経営は不可能である。このため、使用料の改定、処理方式の検討及び計画的な修繕を進めていき、安定的なサービスの供給を目指す。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。